

若竹

第四十五号



四万十川体験親睦会

小4 一宮夕夏

愛媛県神道青年会

事務局 〒790-0008

松山市丸之内73-1

東雲神社内

TEL 089-921-8938

FAX 同上

URL <http://www.ehimeshinsei.net/>



卷頭言

愛媛県神道青年会
会長 和氣省一

春暖快適の候、各会員は元より、先輩諸賢方々におかれましては平素の青年会活動に対しましての御理解、御協力賜りますこと御礼申し上げます。

さて、平成十八年丙戌年も早くも三ヶ月を過ぎようとして、昨年からの小泉総理の乱心により、祖先から約二千七百年受け継がれてきた天皇の歴史が改変され、世界に類のない伝統が終焉を迎えるようとしたが、畏くも秋篠宮妃殿下

のご懷妊という慶事により今国会への改正案提出は見送りとなつた。併し、いずれ再提出の動きが再燃するには必至であり、法案が通過すれば、天皇制の瓦解を創め嘗ての道鏡がごとき卑賤な輩が現れないとも限らない。それを考えると私も含め青年会が傍観者で終わらぬよう努めなければならない。

去る一月に行つた新年互例会でも申し上げたが、近年、例祭日の変更、または議論がされている。過疎化、高齢化、公立小中学校の地方祭休日の廃止等、各神社によって変更理由は様々であり、例祭日は変更せず神輿渡御のみ土曜日曜へ、他にも止む得ない事情もあるのも承知はしている。が、とあるところでは兼職されておる神職が先鋒となり変更を進めている話も耳にしたことがある。氏子の意見は貴重であり尊重するのは当然至極であるが、神社

でなにかあれば、一步立ち止まり、「堰」にもならなければいけないのが宮司であると思うのだが。

明治天皇が明らかにされた教育勅語の冒頭に、

「我カ 皇祖皇宗 国ヲ肇ムル
コト宏遠ニ 德ヲ樹ツルコト
深厚ナリ」

とある。

今一度この言葉の精神を再認識し、我々青年神職と日本が再び心に刻まなければいけない。



神道青年四国地区協議会

第十一回 定例総会
並 設立十周年記念式典

夏の暑さ厳しき八月一日、高知新阪急ホテルにて第十一回定例総会並びに設立十周年記念式典が執り行われました。当日はさすが南国高知と思わせる太陽が照りつける中、高知大神宮にて正式参拝。玉串奉奠では心一つに無事完遂を祈りました。

定例総会では予算決算を始め各種活動について報告がなされ、今後の活動方針また式典における成功を誓いました。

その後、午後四時よりは記念式典が開式。四国四県神社序長様を始め、地区協設立より御尽力いたしました先輩方、また、神道青年全国協議会永井承邦会長、役員

皆様のご臨席を戴き執り行われました。式典では長曾我部昭一郎地区協会長が式辞の中で「これまで培われた先輩方の思いを心に留め、また新たな出発の時と考え邁進していきたい」との決意を述べ、また、来賓を代表し、高知県神社庁長山村稔晴様・神青協会長永井承邦様より祝辞を頂戴し、式典に花を添えていただけました。また式典後、「市場開拓と地域づくり」と題し、馬路村農業協同組合 代表理事専務 東谷望史（とうたにもちふみ）先生の

記念講演が行われ、目標を掲げ達成するためには色々な意見を聞き、それを踏まえて行動に移し、高い志を持ったて進んで行くことの大切さを感じました。その後、祝賀会へと移行し、賑やかな中に納めることができました。

平成七年の当会設立時、「四国はひとつ」を合言葉に、先輩方が心一



四国地区協議会設立10周年記念式典

つに力を合わせ、青年神職の研鑽の場を設け邁進する中に、今十年という大きな節目を迎える事ができました。この節目を新たなる出発と踏まえ、今後私達は先輩方の築かれた「こころ」を次世代にも繋げて行くべく日々の神前奉仕並びにそれぞれの活動に斯界の尖兵として励んでいきたいと感じました。

《十亀博行》

神青協夏季セミナー

去る平成十七年八月二十九日・三十

日の両日、東京は代々木の神社本庁に於いて平成十七年度「神道青年全国協議会夏期セミナー」が開催されました。全国より青年神職百五十名あまり、当会からは和気会長を始め四名が参加致しました。

研修会は「誇り高き日本」～英靈の名誉を回復し 正しく語り継ぐために～を主題とし、公演初日第一講は、元第二次イラク復興支援群長・今浦勇紀先生、第二講は、帝國大学教授・志方俊之先生、二日目第三講は、上智大学名誉教授・渡部昇一先生、第四講は参議院議員・山谷えり子先生を講師にお迎えして自衛隊の活動・国際貢献・必要性について・又、靖国神社を取り巻く様々な問題について、それぞれご講演頂きました。中でも私は、第三講で

の渡部先生のお話の中に「靖国の神々へ感謝を忘れない」と云うお言葉が印象的でした。本年は大東亜戦争終結六十年の節目の年であります。先の大戦に於いて、私たちの先輩方の貴い命の犠牲により日本をお守り頂いた事を忘れてはならないと思ひます。

戦中、特攻隊の方々は「靖国で会おう」と言われ、仲間同士で別れを告げられたそうですが、「もう生きて会うことは出来ない」と云う覚悟の上、国の為に戦われた「精神」日本の為にスピリッツこそ、セミナーの主旨であります「誇り高き日本」それではないかと思ひます。その誇り高き神々「英靈」をお祀りする靖国神社に感謝の気持ちを忘れず胸張つてお参りする事こそ、英靈の名誉を回復することに継がつて行くと思ひます。その為に私たち青年神職が「精神」を継承し、それを示して行かなくてはならないと感じました。

第二十三回観月神楽の夕べ

平成十七年九月十八日大崎龍神社において開催された第二十三回観月神楽の夕べに参加させていただきました。当日の演目は巫女の舞が二つと、伊予神楽から三演目、そして雅楽の生演奏が二曲で、私はこの雅楽の二曲に参加させていただきましたが、

私は今回初めての参加ですし、もともと雅楽があり得意ではないので練習に参加するのにも大変勇気がいりました。

当日は、九月とは思えない残暑の厳しい日でしたが、幸いなことに天候は晴れで、素晴らしい名月が期待されました。

開演に先立ち、会場となつた大崎龍神社の松木宮司様よりご挨拶があり、会長の挨拶へと続く頃、私はH.P.ページ用の写真を撮影していたのですが、すでに会場はほぼ満席で立ち見の人気が少しづつ増えてきていました。

（田内 逸知）



越天楽



浦安の舞

一番目の演目は「浦安の舞」です。私の奉職している神社でも毎年、例祭で地元の童女が浦安の舞を舞いますが、雅楽の生演奏による石鎚神社の巫女さん一人が舞う本格的な舞はさすがに見応えがありました。

二番目の演目は伊予神楽から「神躰鉗女之舞」で、天の岩戸の神話の舞で、舞手は男性ですがとてもしなやかでやわらかい動きで、観客席から撮影をしていると、そばに座っている人がとなりの人と「踊っているのは女性?」「いや男性みたいだよ」などと話す声が聞こえました。

三番目の演目は、雅楽の生演奏による「越天楽」、間に楽器紹介を挟み、四番目の演目「陪臯」と続きます。いよいよ私も舞台に上がるようになりましたが、もう頭の中は真っ白です。筆箋の舌をしきりにお茶につけたり、鳥帽子のずれを直したり、舞台下で落ち着かない素振りを繰り返した後、他の演者のみなさんに続いて一番最後に舞台上に上がりましたが、舞台上から見るとまた一段と観客の多さに驚きました。

そして、五番目の演目、伊予神楽「弓の舞」が始まります。再び観客席に戻り撮影を続けました。この舞は非常にテンポが良くて激しい舞で、しばしば、客席からは拍手がわき起ります。気がつけば大きな満月

一曲目の越天楽が終わると、楽器紹介が始ままり、観に来ていただいた方々により雅楽に親しんでもらうため、三管による「ふるさと」というポピュラーな曲の演奏があつたりしました。そして二曲目の陪臯です。雅楽が不得手な私にとっては非常に難しい曲です。そして練習不足な曲でもありました。一生懸命、他の筆箋の方の音を聞き取りながら、目は楽譜を追うこと以外出来ず、それでも何度もミスをしつつ、無心で吹き続け、気がつけば演奏が終わっていました。自分の未熟さを痛感させられ、やはりまだ無理だったなという後悔が生まれましたが、同時に雅楽に対する熱意が燃え、例え来年はこの舞台に上がれなかつたとしても、絶対に練習は続けようという思いにかられました。

ホームページアドレス <http://www.ehimeshinsei.net/>

が空に上つており、松明の灯りがちらちらと揺れる客席から、ライトアップされた舞台で舞われる舞を眺め、テンポのよい伊予神楽の太鼓のリズムを聞いていると、とても幻想的な気分になり、つい撮影がおろそかになつてしましました。

六番目の演目は「悠久の舞」です。この舞も雅楽の生演奏で巫女さん一人が本職の舞を披露してくれます。私は初めてこの舞を観たとき、舞手が動きをぴたりとあわせて舞う姿に目を奪われ感動しましたが、何度観てもこの舞は夢中で観てしまいます。会場の中にも私と同じような感動を持つてくれた方がいればよいのにと思いつつ、周りを見回すとみなさん真剣な眼差しで、舞台の舞手の姿を追いかけているように思われました。

最後の演目は伊予神楽「大蛇の舞」です。鬼の面を被った舞手が、舞台上に上がり神楽太鼓のリズムが刻み出されると、途端に会場も勇壮な雰囲気へと変わりました。私は舞台袖から、舞の途中で鬼と

相撲をとる子供達と一緒に観ておりました。舞台に上がるのが恥ずかしいのか、最初は尻込みしていた子も、いざ舞台で相撲をとり始めると、元気一杯に大きな相手に立ち向かっていきました。会場からは大きな拍手や歓声が沸き上がります。そして、あつという間に全ての演目が終了し、最後に松木宮司様よりご挨拶があり、その中で観月神楽の夕べ開催にあたり、ご尽力いただいた皆様に前に出ていただきお札を述べられました。私にとっては初参加となつた第二十三回観月神楽の夕べでしたが、好天と名月に恵まれ素晴らしい夕べだつたと感じます。最後に一会员として観月神楽の夕べにご協力いただいた皆様にお札を申し上げるのは当然の事ですが、個人的に、まだまだ未熟な腕前の私を「大丈夫。吹けるよ。」と励ましていただき、そつと背中を押していただいた櫛部先生に心よりお札申し上げます。ありがとうございました。

〈阿部茂之〉



陪臈



伊予神楽 神躰細女之舞



越天楽の楽人



伊予神楽 弓の舞



伊予神楽 大蛇の舞



浦安の舞



悠久の舞



大蛇の舞 子供と相撲



和氣会長 挨拶



綺麗なお月様でした

初詣ポスター発送作業



氏本氏と

ファミリーレストランにて

去る九月十五日、神社庁にて恒例の初詣ポスターの梱包、発送作業を行いました。役員並び有志会員で作業を始め約一時間程で終了しました。愛媛県下各御社でこの初詣ポスターが貼られ多くの参拝者を迎えるように願いを込めながらの作業でした。

さて、今回は初詣ポスターを毎年作製して頂いております会員でグラフィックデザイナーの氏本学さんにお話を伺いました。そして過去の初詣ポスターを掲載致しましたのでご覧下さい。

質問1

今回の初詣ポスターで何年目になるのですか？

平成十三年の正月からですので、已年からですかね。ですので今年で六年目ですね。六作目です。はい。もうそんなになるんですね。ほほ

質問2

今までに作成したポスターの中で一番のお気に入りは？

ひどく拙いので気に入ってはいませんが、一作目には格別の思いがあります。神社関係に携われるこういった場を与えた事は当時、本当に嬉しくて・・・。同時に全く見当はずれの事をしているんじゃないかと心配や不安も大きかつたんですけどね。失敗してる点もありますが一番心のこもった意欲作だと思います。

質問3

その失敗点とは？

鳥居の形が一ヶ所間違つてるんです。

インタビュー「氏本学の世界」

先輩宮司さんに御指摘を受け青ざめました。。。翌作はさらに不評であちこちから非難されたんですよ。欲張り過ぎてポイントを絞り込めていないのが一番の敗因だと思うんですが、未熟でした。

これが一番好きという方もいらっしゃるので落胆はありませんが、この時、神道人としての責任と自覚が少し芽生えたかなと思います。これらの愛情ある苦言は次作以降に反映されてるはずですよ。

質問4

製作にかかる時間は？

一作終えると次作のイメージが漠然と湧いて来ます。一年かけて頭の中で遊ぶんです。切羽詰まらないと動かない性質なので、具体的な作業に入る時は締め切り前になりますね。

時間にして、延べ百時間くらいでしょうか。頭の中のイメージは凄いんですけど、いざ作り終えると、ああ、この程度かつて、なるのが常ですけど・・・。

次々ページに続く

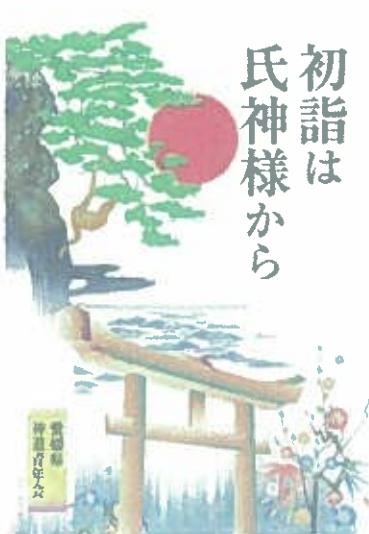
平成十三年 巳年



平成十四年 午年



平成十五年 未年



平成十六年 申年



平成十七年 酉年



平成十八年 戌年



質問
5

一貫したコンセプトはござりますか？

真新しい年を迎える心像風景である事。長い歴史の最先端に貼り出されるポスターである事。大きさですが、

コンピュータグラフィックという新しい手法をとっていますが、実は表現の基礎に日本特有の金箔、切り金、散らし、ほかし、といった古典美術の技法を応用しているんです。まだまだ力不足で真似事の域を脱しませんけど……。制作上、一番面白味を感じています。古くて新しい事。解りづらいいと思いますが、毎回、前年とは違つた手法を試して印象を変える事を心がけているんですよ……。印刷所にはいつもご迷惑をかけていますね。

質問
7

今後の展望は?

優雅と先程言いましたが、さらに神聖

笑笑・・ほ

卷之三

いですね。神道美術はある側面、貴族的な美意識に支えられているとおもうんです。現実の私自身は庶民なんですが、神に仕える以上、心は気高くね。ほほほ

本日、氏本さんのお話を伺いしましたことは、そこまでこだわりをもつて、しかも多くの時間や想像力を費やして作成して頂いてたんだなということを改めて認識させて頂きました。本当に感謝いたします。

今後も変わりませず氏本さんの美意識、こだわりを作品に表して頂き益々すばらしい初詣ポスターを作製して下さい。また「伊豫神楽絵巻」楽しみにしております。がんばつて下さい。

氏本さん、有り難うございました。

質問6 こだわりは？

質問6

こだわりは?

あと、これは個人的な夢物語なんですが、コンピュータで人を描いてみたいですね。普段私は風景や鳥獣画よりも人物画を描くのが好きでして。で、その夢物語とは、もう既に構想は固まってまして、

来年は猪ですし、虎や龍など猛々しい獣もひかえていますので、十二支ひとつ巡り、これからも手掛けさせて頂けたらなと勝手な事を思っています。

本日、氏本さんのお話を伺いしました。感じましたことは、そこまでこだわりをもつて、しかも多くの時間や想像力を費やして作成して頂いてたんだなという

今後も変わりませず氏本さんの美意識、こだわりを作品に表して頂き益々すばらしい初詣ポスターを作製して下さい。また「伊豫神楽絵巻」楽しみにしております。がんばつて下さい。

《富利史》

三島由紀夫・森田必勝両烈士
追悼三十五周年慰靈祭

去る平成十七年十一月二十五

日（金）に伊豫豆比古命神社社会館
に於いて斎行されました。

当人は、午後四時から十二名の
会員が祭場の鋪設と習礼を行い、
午後五時より慰靈祭が開始され
ました。祭典は和氣会長が斎主を
務めて滞りなく斎行され、約一時
間で終了致しましたが、昨今の皇
室典範改定・憲法改正・教育基本
法改正・国立追悼施設新設問題等
という国内情勢もあり、例年にも
増して身の引き締まる慰靈祭と
なりました。尚、次回の慰靈祭か
らは広く一般の方々にも御参列
いただけるような態勢を整える
ことが申し合わされました。

（武知秀忠）



玉串挙げ 祭員列挙



和氣会長 祭詞奏上



神道青年会四国地区協議会
設立十周年
懇親ボウリング大会開催

去る十二月十二日(月)午後三時より香川県高松市のスーパー・ボウル高松におきまして、神道青年会四国地区協議会設立十周年懇親ボウリング大会が開催されました。

当日四国四県より諸先輩を始め長曾我部会長以下三十名の会員が参集して執り行われ、参加者全員に景品があるとあって皆真剣にボールを投じ、白熱したゲームが繰り広げられました。また、単位会ごとの競技も行われ、当県は健闘しましたが僅差で惜しくも二位となりました。その後の懇親会も香川県山下府長様も御来賓として同席され互いに親睦を深め盛大裡に納められた。

△大岡忠徳△



単位会優勝者盃 授与



ボウリング競技中

本年は、自分自身の人間力を構成している要素である使命感を元に【人間力開発研修会】と題し、講師に松山青年会議所、井原桂吾先生をお招きしセミナー形式で行つて戴きました。

会員が輪を作り自己紹介を通しての自己表現能力・プレゼンテーション能力・スライドを通しての観察力・洞察力・・・と、様々な角度から人間力を構成している要素を元に研修し、会員相互が本会を通して自己の「気づき・学び」を氏子・家族をも視野に入れ、多くの方々と共に価値観を育み邁進する事が大切であると実感した研修会であった。

△長曾我部 信弥△

新年研修会



新年研修会



愛媛県護國神社 正式参拝

第二回四万十川体験親睦会 報告

去る八月十九、二十日、去年に引き続き四万十川の川下り体験親睦会を開催しました。まず、十九日午後四時に宿泊場所である四万十カヌー館に総勢四十人（大人二十二名、子供十八名）が集合して各自の役割分担が自然な成り行きで決まりそれぞれ仕事をこなしていきました。男たちはビール片手に炭を起こし、女たちは夕飯の支度、子供達は川遊び。そして日が沈みかけた頃和気会長の挨拶、高知県から参加の岡田氏の乾杯の発声にて親睦会が始まりました。夕食としてカレーライス、そしてバーベキュー。準備していた食材以外に参加者皆様からの温かい差し入れを頂き満足度一〇〇%の懇親会になりました。また、どこからともなくウクレレの音まで聴こえてきて和やかな雰囲気になり徐々に夜が更けてきました。



み、明日の川下りの安全を祈念して一本締めにて一旦中締めました。午後八時からは子供達をロッジに集め雅楽の演奏会を開催。十亀副会長の竜笛、大岡理事の簫篥、田内事務局長の笙、和氣会長の解説。照明を落としカンテラの蠟燭の明りの中、一曲目音取、二曲目越天楽、三曲目竜笛のアンパンマンを演奏して頂きました。子供達は普段聞くことの出来ない生演奏にじっと耳を傾け聞き入つてました。数名は実際に楽器を吹いてみましたが、なかなか音が出なかつたようです。

次にお待ちかねの花火大会。大量の花火が打ち上げられひと時の間、暗闇を明るく彩りました。花火が光るたびに、子供達の笑顔が花火に負けないほど眩しく見えました。そしてあつと言ふ間に光が消え元の暗闇へと戻り、夏の刹那を感じました。次に、暗闇といえは肝試し。肝試しアイテム(被り物、火の玉、河童)が少なかつたものの、

工夫を凝らし子供達を脅かしたつもりでしたが、「あー面白かった」と言われ複雑な気持ちになりました。子供達には大勢集まつてからこそ体験できる催しが続き楽しんで頂きました。そんな頃、大人達の宴会は深夜まで続きました・・・。

翌二十日早朝は生憎の雨でした。朝ご飯、後片付けを終え、いよいよ川下り場所へ移動。早速、子供達は川遊び、カヌー初心者はカヌー講習並び練習を始めました。中には練習開始直後沈没しラフトに変更する方もありました。

昼食をはさみ川下り出発地点へ移動。

ラフト三艇、カヌー十一艇が並び壮観な風景を川原に出現させました。昨日までは雨が降らなくて水量が少なく、逆に転覆すると危険な状態でしたが、川下り途中から、昨夜からの雨で水かさが増し絶好の水量となりました。いきなり大きな流れの速い瀬からのスタートです。ラフトから下り、さらにカヌーへと続きます。



ラフトは子供達の歓喜な悲鳴と共に水しぶきをたて、回転したり岩にぶつかつたりしながらも難なく下つていきましたが、カヌーは早速沈脱者続出（予想通り）。「人殺し！」と叫びながら猛スピードで下流へ流されていく人。流れながらゴツンと足やお尻を岩にぶつけてる人。思うように操れなくて自分が流されていく人。大量の水を飲んでしまった人。カヌーのサポート隊は大忙しでした。初心者も経験者もみんな結局流してしまった四十川の脅威を感じました。途中、ラフトを裏返し滑り台にして子供達が川へ飛び込んで遊びました。更に急いで下流へと向かいました。再度休憩を挟みましたが、陽が射さない為、ずっと濡れたままの身体は寒がつてたようです。それでも子供達は元気な声を張り上げて泳いだり遊んだりしていました。最後の大きな瀬でも沈脱者続出。ラフトからの転落

者約一名も発生（大人でよかつた）。最後の瀬は真ん中に大きな岩があつて落差2メートル（ちょっと大きさかな）の下に吸い込まれるように沈脱者続出。初カヌーの小学校六年生開也君はなかなかカヌーから抜け出せなくてかなり危ない状況でしたが何とかクリアし。ほっとさせられました。ある方は瀬のずっと手前で沈脱（なぜ？）。そのまま大岩に突入しました。さぞかし一番怖かったんじゃないかとお察し申し上げます。そんなこんなで、午後四時、終点場所に到着。

けが人も無く（後日聞いた話では、青あざ、虫刺されの被害報告は確認済み）全員無事川下りを完遂しました。みんなの表情には楽しかったという顔とその裏側に何か大きい事を成し遂げたんだとう生き生きとした満足感が見て取れました。（中には生きて帰れてよかつたって人もいたかも）そして解散式を行い、各々家路へと消えていきました。

振り返りますと、神道強化的研修では

決してありませんでしたけど、実体験として自然の驚異、人一人ではどうしようも出来ない状況を実感して頂いただけでも今回の催しの意味があつたんじやないかと思います。そして、去年の参加者、また今年初めての参加者共に新たな親睦が図れた事が何よりの収穫だったんじゃないでしょうか。

子供達にはひと夏の楽しい最高の思い出になつたと思います。

最後に、この川下りを実施するにあたりチームK（一宮康人〇B、和田正成会員、小野哲也副会長、阿部茂之理事、阿部陽子さん）の皆様の全面的なご協力、サポートによつてなし得た行事だった事を感謝申し上げます。また、神社庁の石丸事務局長様にも手助け頂き、更に参加者の奥様方、料理面でのご協力誠にありがとうございました。（中には生きて帰れてよかつたって人もいたかも）そして解散式を行い、各々家路へと消えていきました。

（一宮利史）



小雨の中 出発です

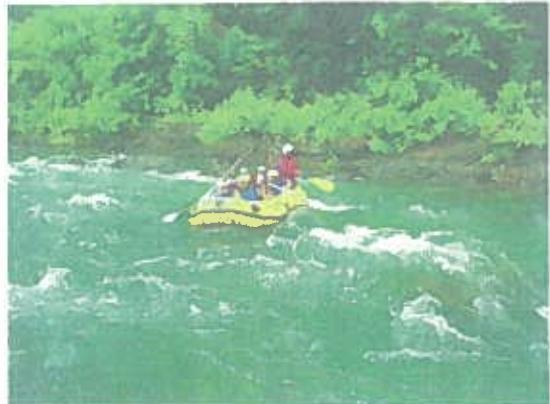


川原にカヌー！ 壮観です



止水では漕がないと進みません。

あー来年もあるのかなー



子供達の歓喜な悲鳴の中、迫力満点。

八月十九日、待ちに待った四万十川でのキャンプの日がやってきました。松野町のおさかな館でベンギンを見た後、いよいよ出発です。去年の宿泊先は小さな神社の隣にある集会所でしたが、今年はバンガローです。テントを張っている人もいて、なんだかワクワクしました。一日目は川遊び、バーベキュー、花火、肝だめし、雅楽鑑賞などをしました。中でも、打ち上げ花火はとても迫力があり、とても印象に残っています。二日目はいよいよ川下り。ぼくは「今年は、カヤックに挑戦しよう！」と心に決めていたので、初めて乗らせてもらいました。カヌーはこれまでに、海岸で漕いだことがありましたが、カヤックの方がバランスをとるのが難しかったです。漕ぎ進みながら周りを見ると、景色も水面もとてもきれいでびっくりしました。また、流れが速い所や、岩がたくさんある所など、川ならではの楽しさが満載でした。途中で大きな転覆を一回してしまったので、次回もぜひ参加して、もっと上手くなりたいと思いました。

小学校六年生 参加者 感想
矢野開也



頒布品の御案内

4人掛床几

一脚◆17,000円 ◆耐水幌布使用

◆長さ180cm ◆幅33cm ◆高さ44cm

◇ご注文・お問い合わせは◇

〒790-0008 松山市丸之内73-1 東雲神社内

愛媛県神道青年会 事務局 田内逸知

TEL 089-921-8938 FAX 左同



愛媛県神道青年会